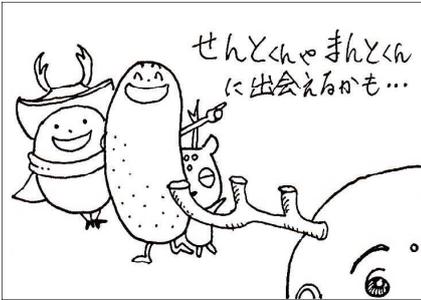


ジャガイモ

令和5年11月22日

「心の記念写真②～奈良・京都へふたたび～」

校長 江口 満



【前号からの続き】平城遷都に至る半世紀は、日本が大きな危機を克服して国の再建を果たした時代だったといわれている。幕末から明治と同様に、国づくり、国防、文化の創造という総合戦略を成し遂げた象徴が平城京だった。また奈良時代は日本の歴史上、最も国際的に開かれていた時代という。僧1万人を招いて行われた東大寺の大仏開眼供養(752年)では、大仏に魂を迎え入れる大導師をインド僧が努め、唐、ベトナムなどの僧も重要な役割を担った。各国から多数の僧が訪れていた。新羅や渤海をはじめ各国との交流も深く、奈良はアジア・西域文化の集積地だった。



そして平城京が奈良に築かれた後、70年あまりの間、平城京は古代日本の都として栄えた。この都は、東西約4.3km、南北4.8kmの広さに、外京として東

に東西1.6km、南北2.4kmを加えた面積を占め、平城京から南に走る朱雀大路を中心に、大路与小路によって整然と区画され、壮麗な宮殿や寺院、貴族の邸宅によって美しく彩られていた。この外京に建てられたのが、阿修羅像で有名な興福寺である。外京の外には、現在も東大寺、春日大社(768年創立)がある。

平安京のあった京都は、豊臣秀吉の時代にまちづくりが進んだため、平安京の三条や五条などの通りの名は残っているが、京都のまちの雰囲気の中に平安京は基本的に残っていないとされる。しかし、奈良のまちは、現在も、1310数年前の姿を木造都市として残している。都が京都に移ると、平城京の大部分は水田



6月9日(金)修学旅行に向けた学年企画第二弾「福岡ウォークラリー」の様子



大濠公園での昼食

(裏へ)

そして、明治時代に建築史家 ^{せきのただし} 関野貞 が田んぼの中にある小高い芝地が大極殿（第二次）の基壇であることを発見し、その後、棚田嘉十郎らが中心となって平城宮跡の保存運動が起こった。^{すざくもん} 朱雀門、大極殿（第一次）は当時と全く同じ場所に復元されている。また現在、東大寺、春日大社、興福寺、春日山原始林、元興寺、薬師寺（680年）、唐招提寺（759年）、平城宮跡の8つの「古都奈良の文化財」は、ユネスコの世界遺産に登録されている。

東大寺二月堂で752年から行われている「お水取り」、春日大社の五穀豊穡を祈って1136年に始められた「若宮おん祭り」は、戦争や災害があっても途絶えることなく続いている。春日大社の20年に1回の造替も一度もとばされずに続けられている。奈良は、途絶えることなく行われてきた数多くの伝統行事をつないできた素晴らしい歴史を持ったまちである。

いよいよ11月26日（日）、海江田学年は修学旅行に出発する。二年生の皆さんといっしょに、時空を超えて奈良や京都の歴史文化をまるごと体験し、「心の記念写真」という素晴らしいお土産を持って帰りたいと思う。そして生徒の皆さんは、近い将来、奈良・京都へふたたび旅立つかもしれない。その日のため



にあなた自身の「何か」を見つけるような旅になってほしいと願う。



福岡タワー

